

大和市子ども読書活動推進会議 会議記録

会議名	令和3年度 第2回 大和市子ども読書活動推進会議
開催日時	令和3年9月30日(木) 書面開催
開催場所	書面開催
参加委員	<p>&lt; 推進会議委員 &gt;</p> <p>今宮 智子、伊禮 利奈、渡辺 康子、吉野 敦子、山口 真由子、長嶋 智美、古木 幸一、矢嶋 千草、大川 伸子(順不同・敬称略)</p>
公開非公開の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
審議又は検討経過及び結果	<p>1 議事</p> <p>(1)子ども読書わくわくプラン実施計画(令和2年度分)の進捗点検(2次点検)について</p> <p>委員: 施策番号3の⑥について、現在は、青少年センターでのおはなし会は実施していない。また、絵本を置いてあったフリースペースも会議室になっている。人を集めるのが難しい時期にイベントを用意したことは有意義であったと思う。学校においてポスター等を通じて家読を周知したとあるが、周知力としては弱いのではないか。全体的にはA評価で良いと考える。</p> <p>委員: 施策番号3について、子どもの読書習慣に合わせた働きかけを再考したい。月に1, 2冊読む子であれば、それを3, 4冊に増やす働きかけを行い、全く読まない子どもには長期休暇に1冊読む程度の働きかけを行う。図書館に来る子どもであれば、図書館をより便利にし、居心地を良くする働きかけを行い、図書館に全く来ないような子どもには、図書館に一度でも来てもらう、もしくは自宅や学校を始めとした毎日訪れる場所の読書環境を整備する働きかけを行う。子どもたちにどこで本を読みたいかという質問もしてみたい。子どもたちには、本は楽しい、面白い、読んでみたい、役に立つ等の経験を一度でも多くしてほしい。</p> <p>委員: 施策番号5について、コンシェルジュを配置しただけでAランクとなるのであれば、これからの具体的な活躍を期待したい。問い合わせ数や、満足度の効果測定があれば、さらによくなっていくのではないか。</p> <p>コンシェルジュの存在をわかりやすく提示し、子どもたちに、図書館にいる大人達に声をかければ本に関して、親切に教えてもらえるという安心感をもってほしい。</p> <p>委員: 施策番号6～10について、ボランティア活動は多々制限されているなかで、今後の活躍に期待する。施策1より、小学生を対象とした活動内容はすでに充実し、目標を達成していることも多い。今後は乳幼児、保育園でも事業展開できればよいと思う。マスク着用により、子どものことばの発達が遅れる恐れがあるのではという声を聞き、絵本がことばと想像力を養うツールになるのではと思う。</p>

委員：施策番号21について、リサイクルフェアでは小学生向けの書物が多く乳幼児向けの絵本を増やす取組をしてほしい

委員：施策番号23について、子どもが集まる場所の本の充実の向上に対し、施策14の児童クラブへの団体登録の継続が無かった事を残念に思った。コロナ禍の影響もある中、やむを得ない状況であったことは理解するが、状況が落ち着いた際は、児童クラブでのよみきかせ等の取組が進むことを期待している。その活動が、子どもの本に対する好奇心に繋がることも期待したい。

委員：施策番号28について、評価Aとなっているが、事業を中止したのであれば、新型コロナウイルスの影響はやむを得ないとしても、評価Bとすべき。

(事務局) 新型コロナウイルスの影響があった場合は、過去の進捗を参考に評価を行うよう整理をしていたが、整理の方法を再考し、完全に中止していた事業(施策番号4, 12, 17, 28, 36, 38, 40)に関しては、評価 C(未着手)とする。

委員：施策番号30について、コロナ禍においても、各学校でスーパーバイザーの学校訪問等を行いながら、学校司書や司書教諭への支援が実施され、それを活かして活動することができたので評価Aとすべき。

(事務局) 学校での取組状況を評価し、評価 Aに引き上げる。

委員：施策番号1, 44について、第一子の子育てと、第二子以降の子育ては、大きく異なる。育児の状況が異なるにも関わらず、ブックスタートは画一的な対応になってしまっている。絵本の配布と共に、家庭内の読み聞かせの習慣化と環境作りを進める働きかけはできないか。第一子がブックスタートの絵本をきっかけとして、絵本を手に取り、楽しく面白いものだと感じ、読み聞かせを続けていけば、自然に弟や妹も読み聞かせに耳を傾ける可能性がある。逆に第一子の読み聞かせが定着せず、習慣も環境も無ければ、第二子以降も絵本のある子育ては根付かないのではないかと危惧している。ブックスタートは年間の開催回数も多く、「絵本」と「体験」のプレゼントは喜ばれ、効果も期待される素晴らしいもので、自分自身も、幅広く好まれる絵本には親しみが沸き、就寝時等の読み聞かせに何度も手に取った。

「絵本のまち やまと」「図書館 城下町 大和市」として、大きなシンボルを掲げている大和市だからこそ、絵本のように夢があり、子どもたちのように個性的に、自治体として効果を発揮する取り組みを柔軟に行って欲しいと一市民の立場からも声をあげたいと思う。

以上